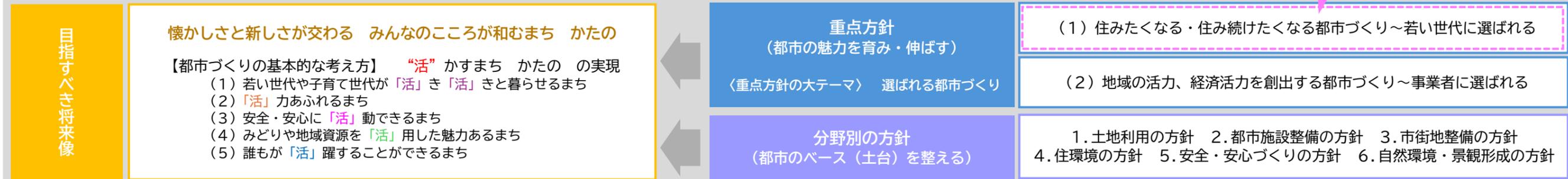


交野市立地適正化計画 - 「まちづくりの方針と誘導施策」の枠組み

立地適正化計画と
関連性高い

II 交野市都市計画マスタープラン II



踏まえる

立地適正化計画に基づき取り組むべき課題

① 鉄道駅周辺（特に交野市駅）の求心力低下への対応

- 交野市駅周辺の商業施設は縮小傾向（テナントが撤退等）にあり求心力の低下が顕著（整備時期の新しい星田駅周辺等も将来的には同様の現象が起こる可能性も）
- 大型商業施設は幹線道路沿道への立地が進む
- 寺・向井田地区における新市街地整備を新たな拠点としてどう位置付けていくか

② 子育て層のさらなる定着につながる機能導入

- 少子高齢化が進行しており、近年の人口は7万人台で推移、将来人口予測では減少傾向は否めず
- 一方、近年は30～40歳代の転入が増加傾向（大阪市、枚方市への通勤・通学多くベッドタウンに）
- 人口減少・高齢化に伴う諸問題（空家増加等）も散見され、将来を見据えた対応が必要

③ 激甚化する災害への対応

- 本市は大きな被害を受けてはいないものの、全国各地で甚大な被害をもたらす災害が頻発
- 市内においても土砂災害警戒区域の指定箇所や河川氾濫に伴う浸水エリアは少なからず散見される

④ 公共交通の利便性低下への対応

- 京阪バスの路線撤退に伴う移動サービスをどのように確保すべきか
- 公共交通の利用促進をいかに図っていくべきか

立地適正化計画の方針

将来像	まちづくりの方針
<p>都市計画マスタープランの将来像再掲</p> <p style="color: red; font-weight: bold;">懐かしさと新しさが交わる みんなのところが和むまち かたの の実現</p>	<p>① 拠点の役割に応じた機能の充実・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○それぞれの鉄道駅（交野市駅、河内磐船駅・河内森駅、私市駅、星田駅、郡津駅）周辺ごとの役割に応じた都市機能や生活利便機能の充実・強化を図る ○JR新駅の整備も検討されている寺・向井田地区では、その土地利用動向を見極めながら位置づけ等を検討する
	<p>② 子育て層を軸に多様な世代が暮らしやすい居住環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○若者やファミリー世帯などにとって魅力があり、住み続けたい機能導入や生活空間の形成を図る ○若くして住み始めた人たちが高齢になっても、安全・安心で快適に住み続けることができる居住環境の形成を図る
	<p>③ 安全・安心に暮らせる、災害に強い環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○インフラの適切な整備、維持・管理により市民の安全・安心で暮らしやすい住環境の形成を図る ○自然に恵まれた都市環境を活かし、グリーンインフラ等を加味した災害に強い都市空間の形成を図る
	<p>④ 市民の移動手段の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民の重要な移動手段である公共交通の維持を図りつつ、地域特性にあった方策を検討する ○鉄道駅の交通結節機能の充実・強化を図りつつ、移動手段の多様化や連携について検討する <li style="text-align: right;">➡地域公共交通計画の策定を視野に入れる

まちづくりの方針に基づく誘導施策

○鉄道駅周辺（拠点）ごとの整備・誘導方針

- 交野市駅：公共公益機能や商業・業務機能の充実・強化
- 星田駅：商業・医療施設の集積による利便性の充実・強化
- 河内磐船駅・河内森駅：公共施設や商業施設等の集積による利便性の充実・強化 など
- 寺・向井田地区における新市街地の形成（JR新駅の整備、土地区画整理事業の推進など）

○心地よく魅力的な歩いて楽しいまちづくり

- 子育てしやすい環境づくり（子育て支援機能の誘導など）
- 地域資源の活用やみどり豊かなまちづくり
- 住み替え支援
- 空家の適正管理と有効活用
- 誰にでもやさしい暮らしの環境づくり（バリアフリーの推進など）

○市街地の防災性の向上（木造建築物の耐震化、準防火地域の指定に向けた検討など）

- 治山・治水対策（浸水被害軽減のための護岸施設の整備、農地の適正管理など）
- 地域主体の防災力の向上（防災訓練やハザードマップの作成支援など）

○二次交通の維持と利用促進（地域にあった交通の検討、モビリティマネジメント、外出支援策との連携によるバスの利用促進など）

- 交通結節拠点としての充実・強化（鉄道駅や駅前広場のバリアフリー化、サイン整備など）